2020/5/21 ozeki

解脱の宝飾　第８章　帰依して律義を受ける　　　　　　ｐ１５０・7 行目～１５２・22 行目

発菩提心

発菩提心の依処の人

１）依処の人は大乗の種姓を具えているべきこと

２）依処の人は三宝に帰依すべきこと

三宝に帰依を説明するには

九つ義：区別・依処・対境・時・思惟・儀義・作業・学処・利得

＊本日は対境・時・思惟について学びます。

３）依処の人は別離脱界の七種類のどれか一つを具えているべきこと

帰依の対境

[帰依の]対境には、
[　１）共通の対境と、
２）特別の対境との]二つ。

対境　object　①物　物体　②**対象**　③目的

共通の対境

共通の対境を説明するには、

仏宝は、[障の]断除と[証得の]智慧と大性の本体[である]円満を具えた仏陀世尊です。

法宝についても[、教えの法と証得の法との]二つ[。そ]のうち、教えの法は聖教の十二部（訳註１１）です。証得の法は[四聖諦のうち]道諦と滅諦です。

僧宝には[凡夫の僧伽と聖者の僧伽との] 二つ[。そ]のうち、凡夫の僧伽（訳註１２）は、清浄な四人以上の比丘の集まりです。聖者の僧伽は[預流・一来・不還・阿羅漢の各々、向と住との]四双八輩の人たちです。

仏宝・法宝・僧宝　→三宝

障　悟りを得ることを障害するもの。また，煩悩の異名。（コトバンク）

円満　悟り・智慧・往生・願いなどが完全に実現すること。成就すること（weblio）

証得　　得ること・完成すること

十二部　（訳註１１）

１）契経　２）応頌　３）諷頌　４）因縁　５）本事　６）本生
７）未曾有８）譬喩　９）論義　１０）自説　１１）方広　１２）授記

仏の説法としての経典をば、その表現形式や諸説内容などによって、九種または十二種に区分したものである。　（仏教要語の基礎知識 P85 より引用）」

四聖諦（ししょうたい）　（仏教要語の基礎知識）

苦聖諦、苦集聖諦、苦滅聖諦、苦滅道聖諦の四つを指す。ここに聖とは凡に対する語であって、無漏

出世間の悟りを指し、生死輪廻の有漏迷妄の三界世間を超えたものである。四聖諦は略して苦・集・滅・道の四諦からなる。

道諦　　理想世界の原因理由・・・・・・・・・因
滅諦　　自覚ある理想世界・・・・・・・・・・果

還滅縁起（流転を脱した無苦安穏の涅槃とそれに到達すべき修行法を述べたもの）

僧伽　　仏道修行をする僧の集団。

凡夫の僧伽　（訳註 12）別離脱戒の四波羅夷（しはらい・淫・盗・殺・妄)、あるいは十三僧残（仏教の出家者（比丘・比丘尼）に課される戒（具足戒）の内、波羅夷に次ぐ重罪の総称）をも含めたものを護って罪を避けるものを言う

四双八輩　　四双とは、須陀含・斯陀含・阿那召・阿羅漢　八輩とは、四双の向と果を合わせたもの
向と果を一双として、四種の一双とし、四種の双で八輩となる。

四向四果 （しこうしか）とは、原始仏教や部派仏教における修行の階位のことであり、預 流向・預流果・一来向・一来果・不還向・不還果・阿羅漢向・阿羅漢果のこと。四双八輩ともいう。果とは、到達した境地のことであり、向は特定の果に向かう段階のことである。(Wikipedia より）

＜ガルチェン・リンポチェ法話集２清浄の道　～帰依戒～　Ｐ２１より引用＞

「帰依戒」を受ける前に、三宝に帰依することの意味を説きましょう。どの宗教にも、宝あるいは帰依の拠があります。拠が自分の外側にあると考えた場合、それを「外の三宝」と呼びます。一つ目は仏です。三世すべてに仏がおられますが、今の時代の仏は釈迦牟尼仏です。二つ目は三蔵からなる仏法です。三つ目は僧伽（サンガ）です。声聞乗・菩薩乗・金剛乗を実践する者を指します。仏・法・僧、この三つが外の三宝、外の帰依拠です。

特別の対境

特別の対境は、
1）現前に居られる対境と、
2）現観の対境と、
3）真実の対境との［、合計］三つです。

そのうち、[第一：］現前に居られる対境は、仏は如来の像、法は大乗の経函、僧は菩提の僧伽です。

［第二：］現観の対境は、仏は［法身、受用身、変化身の］三身を本体としたものです。法は正法［である］寂静と涅槃です。僧は、[、第一歓喜地以上の菩薩の］大地に住する菩薩です。

［第三：］真実の対境に関しては、帰依の対境は唯一、仏のみです。そのようにまた『大乗宝性論』（訳註１３）に「勝義としての[世の]衆生の帰依[処]は唯一、仏のみです。」と説かれています。

現前に居られる対境	objects abiding in front of us	abiding	永久的な　長続きする
現観の対境	full realization	realization	認識　現実
真実の対境	suchness	suchness	真如（wikipedeia より）
大乗の経函（けいかん）	tha Mahayana scriptural	大乗の経典	

三身　法身　仏の説法としての真理を人格化した真理仏
受用身（報身）法界から等流した仏身であり、法界に等同して流入した理想の仏身
変化身（応化身）教化の対象に応じて、仮にある姿を化作した仏身。報人のように三世十方にわたって普遍的に存在する完全円満な理想の仏身ではなく、特定の時代や地域や相手に応じて出現する仏陀（仏教要語の基礎知識）

歓喜地　菩薩五十二位の修行階位のうちの第四十一位。十地の初位（初地）。
菩薩がこの位に至れば真如をさとるから、再び退転することなく必ず成仏できることが定まり、歓が生ずるので歓喜地という　(wikiArc より引用)

勝義　最もすぐれた道理の意で，仏教の究極的立場

	仏	法	僧
現前に居られる対境	如来の像	大乗の経函	菩薩の僧伽
現観の対境	［法身、受用身、変化身の］三身を本体としたもの	正法である寂静と涅槃	第一歓喜地以上の菩薩の大地に住する菩薩
真実の対境	仏のみ		

仏陀のみが永久の帰依処であること

では、仏陀が永久の帰依[処]に適うのはなぜかというと、[『同論』に]（訳註 14）「牟尼は、法身を持つから、[僧伽の]衆もまたそれを究竟とするから。」と説かれています。

諸々の牟尼は生滅が無く、[本来清浄と離垢清浄の二つについて]清浄であり、貪欲を離れている。すなわち、法身を持っている方また、最上の帰依[処]です。三乗の衆もまた、清浄究竟の法身を得たことにより、究竟することになるから、最上の帰依[処]です。

では、法と僧伽との二つもまた、永久の帰依[処]ではないのか、というなら、『宝性論』に「二種類の法と聖者の衆は永久の最上の帰依処でない。」と説かれています。

それならなぜに永久の帰依処でないのかというと、法には[、教えの法と証得の法との]二つ有るうち教えの法は名の集積と字の集積であるので、[すでに]道を往きおわってから筏のように捨てるべきこと[になる。です]から、永久の帰依[処]ではないのです。

証得の法にもまた[、道諦と滅諦との]二つのうち、道諦は有為であるので、無常です。欺く法を有するものであるから、帰依[処]ではないのです。滅諦は、声聞の宗の灯火が滅したように断絶だと主張するので、無いから、怖れを有するから、二種類の法と聖者の衆は永久の最上の帰依処でない。」と説かれています。

僧伽は、彼自身もまた輪廻を恐れて、仏陀に帰依したものです。怖れを持ったものであるので、永久の帰依[処]ではないのです。

そのようにまた『宝性論』に、「捨てるべきであるから、欺く法を有するから、無いから、怖れを有するから、二種類の法と聖者の衆は永久に最上の帰依処でない。」と説かれています。

よって、軌範師アンザンガ御前もまた[『同註釈』(訳註１７)に]「無尽の帰依[処]、常である帰依[処]，堅固[・不変]の帰依[処]、最上の帰依[処]はただ一つ。すなわち、如来・応供・正等覚者です。」と説かれています。

牟尼　釈迦牟尼仏のこと。仏

究竟（くきょう）　　「より高い」の意から，究極を意味する。

本来清浄・離垢清浄　自性清浄。離垢清浄と対をなす。離垢清浄が，われわれの心は煩悩を離れれば清浄（悟り）となることであるのに対し，煩悩にけがされているわれわれの心も，その本来の姿においては清浄であることをいう。また，この本来清浄なる心を自性清浄心という。

三乗　　声聞乗・縁覚乗・仏乗をいう。(仏教要語の基礎知識)

声聞乗（小乗）自分だけの完成や救済を目的とする自利の教えであるから小乗という。

縁覚乗・仏乗　（大乗）　自ら完成して救われるだけでなく、他の人々も広く救済し完成させることを任務とする自覚覚他（自らさとり他をさとらせる）の教え。

<ガルチェン・リンポチェ法話集２清浄の道>　～P22・23 より引用～

次に理解すべきことは、「内の三宝」が心の中にあるということです。「内の三宝」はあなた自身の心です。これがあなたの本当の帰依処です。釈尊は次のようにおっしゃっています。「解脱に導く方便を示すことはできるが、解脱そのものはその者の修行による」。のちほど「たぷいんのー（これが方便である)」と申し上げます。これが菩提に至るための、苦から解脱するための方便である。という意味です。それに対してみなさんは「れっそー（すばらしいです)」と答えてください。苦から守られるための真の方便は、慈悲を育てることです。仏の本質、あなたの内なる仏は、あなた自身の智恵、あなた自身の知です。勝義のレベルでの智恵の本質は、二元がないこと、自と他がないことです。有情には自と他という二元が現れ、これが輪廻を、すべての愛着と嫌悪を作り出します。ですから勝義を悟るために、「自己の心を浄くする　これが諸仏の教えなり」と釈尊はお説きになりました。

あなたの心は原初から仏です。衆生はみな仏です。衆生の心は仏以外の何ものではありません。ですが衆生は、我執と自他の二元の把握によって、一時的に汚れています。そして輪廻の無始爾来、この考えに慣れ親しんでいます。これについて広く説くこともできますが、最も大切なことは、慈悲と菩提心があなたの帰依処だということです。これはまた「三十七の菩薩行」にも説かれています。利他心こそが釈尊の説かれた法であり、利他心こそが帰依処です。

三宝として説かれた理由

では、上に帰依[処]を三つ説かれたことと相違する、というなら、それは、教化対象者を導く方便として出ているのです。『大解脱経』(訳註１８）に「要するに帰依[処]は一つ。方便により三つです。」と説かれています。

方便により三つとしてどのように設定されたのかというなら、『大乗宝性論』(訳註１９）に、「教主、教え、学徒の義により、三乗と三つの能作と信解する者たちに関して三帰依[処]が設定されたのです。」と説かれています。三つの功徳と三つの乗と三つの作用と三つの信解に関して、設定されたのです。

それもまた、教主の功徳を説くために、菩薩乗の人と、仏に対して最上になされるべきことを為すと信解する者たちに関して、仏陀は帰依[処]です。「両足の者たちの最上(両足尊)[である]仏に帰依します。」というのです。

教えの功徳を説くために、独覚乗の人と。法に対して最上になされるべきことを為すと信解する者たちに関して、法は帰依[処]です。「離貪の者たちの最上[である]法に帰依します。」というのです。

学徒の功徳を説くために、声聞乗の人と憎伽に対して最上に為されるべきことを為す[と信解する]ことに関して、僧伽は帰依[処]です。「諸々の衆の最上[である]僧に帰依します。」というのです。

そのように、三種類の義により六つの人に関して三帰依設定したこれは、世尊がただ世俗ほどとして[方便として、諸々の]有情たちを乗に次第に入れるために説かれているのです。

In that case, doesn't this contradict the explanation that there are three types of refuge? The three refuges appear as a method to lead sentient beings. The Great Liberation Sutra says:
In brief, one refuge and three methods.　How are the three methods laidinterests .The three refuges were laid out. The three methods were laid out according to the three qualities, three vehicles, three actors and the three aspirations.
Furthermore, in order to demonstrate the qualities of the teacher, the Buddha is the refuge for persons　of the bodhisattva vehicle and those who are interested in performing the supreme activities of a Buddha.
They　take refuge in the Buddha, the supreme being of the "two-leggeds."6
In order to demonstrate the qualities of the teachings, the Dharma is the refuge for persons of the Solitary…
In order to demonstrate the qualities of the practitioners, the Sangha is the refuge for persons of the Hearer vehicle and those who are interested in the work of the Sangha. They take refuge in the Sangha, the most excellent of all communities.
Thus, the three refuges are laid out by the three meanings and according to the six persons. The Exalted, Blessed One said this in a conventional state in order that all sentient beings could gradually enter into the different stages of the vehicles.

教化対象者 sentient beings　所化［仏・菩薩（ぼさつ）などにより教化（きょうけ）されること。また、教化を受ける者］
三乗と三つの能作と信解する者たち　The three refuges were laid out.　lay　out（割り振る・展開する）
三つの功徳と三つの乗と三つの作用と三つの信解する者

the three qualities
three vehicles,（乗り物・伝達手段）
three actors　（行動人・行為者）
and the three　aspirations.（抱負・向上心・熱望・志望）

菩薩乗　大乗と同じ。
独覚乗　縁覚と同じ　他からの教えによらず、自らの縁起の道理を観察することによって悟りを開くとされる
仏に対して最上になされるべきことを為すと信解する者たち

those　who are interested in performing the supreme activities of a Buddha.
perform　実行する・成し遂げる　supreme：至高の・無上の

両足の者たちの最上（両足尊）[である]仏　in the Buddha, the supreme being of the "two-leggeds."
両足尊：仏の尊称の一つ。すべての生類を多足，無足，両足に分け，そのなかで両足のもの（神々や人間）が最も尊いとし，さらに両足のもののなかで最も尊い人という意。
離貪　むさぼりを離れること
六つの人　the six persons　二重線で記した六つの人々という意味でしょうか。
乗　仏教は人々を迷いの比岸（現実界）から悟りの彼岸（理想界）に渡す乗り物であるから、仏強を乗り物に例えて乗という。

＜日本ガルチェン協会・資料・ガルチェン・リンポチェのことば・帰依（１）より引用＞
帰依戒はたいへん特別の誓いです。どうしてかというと、私たちが実際に三宝に帰依して、帰依戒の真実の意義をほんとうに理解するなら、この生だけでなく、すべての未来生においても保護を受けることができるからです。悟りを得るまでの期間については、私たちの未来生は、地獄・餓鬼・畜

生の三悪趣に堕ちることがなくなって、人間や天人に転生することができます。そして、おのおのの生の間は、さまざまの困難に遭うこともなく、病気やあるいは精神的な苦痛に遭うこともありません。いつか最後に私たちは悟りを開く（証得仏果）ことになりますが、仏果を得たときには、私たちのはたらきは諸仏のはたらきと同じになるのです。ですから、帰依をするということは、すなわち一時的な保護と究極的な保護を得るということです。こうして、帰依は無上で信頼出来るものであり庇護の原因であるといえるわけです。

帰依するときには、一般に知られているように、外の三宝、すなわちブッダ（仏）とダルマ（法）とサンガ（僧）に帰依します。しかし私たちは同時に、自分はブッダを見ることができなくて、　ただダルマとサンガを見ることができるだけだと知っています。
ここでかならず理解しておかなければならないことがあります。それは、サンガの一人の僧の姿の中に実は三宝のすべてが含まれているということです。たとえ私たちが目の前にブッダのお姿（外相）を見ることができなくても、ブッダの心はサンガの中にあります。そしてブッダの心はすなわち心の導きの師です。それがサンガの心であるわけです。サンガの人々の外から見えるふるまいは、戒律が他人を傷害する因を取り除いていますから、サンガの姿はすなわちブッダの悟り（証悟）の姿なのです。また上師のお言葉はダルマです。一切の上師のお言葉はみなダルマなのですが、それはなぜかというと、上師は四聖諦や慈悲や菩提心などを教えられますが、それらがすなわちダルマだからです。上師のお心はすなわちブッダのお心です。ブッダのお心とは空性の了解のことです。これについては他で述べたことがあるのですが、この一点中に他の全ての教えが含まれています。空性の中で自我は完全になくなってしまい、ただ一切の衆生に対する思いやりだけがあるのです。

私たちがブッダのことを想うときには、ブッダの心がもっとも重要です。ブッダの心は慈悲の心と智慧の心です。すべてのサンガの人々の心もまたすべてここにあります。一切のサンガはみなブッダの心をもっていますので、それゆえ、サンガの中のひとりの僧の中に、三世の諸仏が兼ね備わっているし、三世の三宝が円満成就しているのです。

帰依の時

時についてもまた二つ[。そ]のうち、

1）共通の時は、この時から始まって生きている間、帰依するのです。

2）[差別をもった]殊勝なものは、この時から始まって[菩提道場・]正覚の心髄に至るまで、帰依するのです。

殊勝　すぐれていること

菩提道場　仏道を修行する場所。

正覚　　仏のさとり

［差別をもった]殊勝なもの　　The special one　　「特別」ということでしょうか。

【帰依と発心の祈り】
ブッダとダルマと聖なるサンガとに
菩提を得るまで帰依したてまつる
わが積みきたる布施など福徳で
衆生のためにブッダになることを

帰依の思惟

思惟にもまた二つ[。そ]のうち、
１）共通のものは、自己一人の苦に忍耐しない思惟です。
２）[差別をもった]殊勝なものは、他者の苦に忍耐しない思惟によってです。

There are also two types of motivation. The common motivation is to take refuge with the thought of one's own unbearable suffering. The special one is to take refuge with the thought of others' unbearable suffering

unbearable suffering　耐え難い苦しみ

＜ガルチェン・リンポチェ法話集２　清浄への道　Ｐ２３・２４より引用＞
仏法の三蔵は広大で八万四千もの教えがありますが、その本質はただひとつ、菩提心です。仏の本質は智恵、法の本質は慈悲です。たとえば今日あなたが帰依戒を受けようと思ったそのことが、あなたの内なる智恵、あなたの知、あなたの内なる仏です。「帰依戒を受けたから修行しよう」、「仏法を修行して自分を守ろう」と考えるこの意識が、あなたの仏です。「私は慈悲を育てなくてはならない。それが私の帰依処なのだ」と理解するこの意識が、あなたの内なる仏です。この知、この智恵が、煩悩と我執からあなたを守り、慈悲を育み、苦を退けるのです。

これらのことはみな、後でお渡しする帰依戒のカードに書かれています。このカードは、内の三宝の意味を説くために新しく作ったものです。三宝の意味をよく問われますし、多くの人が内の三宝をあまり理解していないようなので、新しいカードを作りました。内なる仏は智恵、内なる法は慈悲、と書いております。

帰依戒を望むことは智恵です。真の帰依拠は慈悲であり、これが法です。これを成就するために修行するのですから、修行とは、智恵と慈悲を育てることです。智恵と悲心から決して離れないようにすること、それが修行の本質です。慈悲は氷の塊を溶かす熱です。繰り返しますと、あなたが帰依する仏の真髄は、あなた自身の智恵であり、あなたが帰依する法の真髄は、あなた自身の慈悲です。

☆　2017 年にドルズィン・リンポチェから帰依戒を受けたときに頂いたカードより引用

I take refuge in transcendent awareness, the heart essence of Buddha.
I take refuge in compassion, the heart of Dharma
I take refuge in spiritual friends, the heart essence of companions.
transcendent 超越的な・卓絶した
awareness　自覚・意識・認識

【引用文献】　ガルチェン・リンポチェ法話集１修行の道・同　法話集２清浄の道
仏教要語の基礎知識（水野弘元）・佛教語大辞典（中村元）
日本ガルチェン協会 HP 資料・新英和中辞典（研究社）